蔡 国喜 論文内容の要旨

主論文

Inequality and Unwillingness to Care for People Living With HIV/AIDS:

A Survey of Medical Professionals in Southeast China

HIV感染者・エイズ患者に対する医療サービスにおける格差と消極性：
中国東南部の医療従事者を対象とした調査

著者名
蔡 国喜、門司　和彦、本田　純久、呉　小南、張　孔来
(AIDS Patient Care and STDs, accepted 19 January 2007)

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学系専攻
（主任指導教員：門司和彦教授）

緒言

中国衛生部とUNAIDS（国連エイズ計画）の共同声明によると、中国のHIV感染者は全国31の省と市に拡がり、HIV感染者数・エイズ患者は年々増えている。このままの状態が続けば2010年には1000万人に達すると危惧されている。中国では農村部にHIV感染者が多く、農村部の医療は、大学をでていない助医師（医士）によって担われる場合が多く、大学卒の医師の多い都市部の近代的病院とはエイズに関する専門知識や態度、医療サービスに大きな差があると考えられる。

本研究の目的は、福建省の省病院、市病院、県病院、郷ヘルスセンター、村医療ステーションの５つのレベルの医療機関で働く臨床医のエイズに関する知識、エイズ患者に対する態度、実際に行っている医療行為や健康教育・指導を調査し、福建省のHIV感染者及びエイズ患者の受けている医療サービスを明らかにし、中国におけるエイズ診療に対する効果的な介入法を模索することである。中国では臨床医のエイズに関する専門知識・態度に関する研究が少なく、特に農村部における実態は明らかになっていない。

対象と方法

対象の抽出は層化クラスターサンプリングによった。中国の5つの行政レベルである省、市、県、郷、村について福建省福州地区から各3病院、3病院、3病院、8ヘルスセンター、87医療ステーションの計104医療機関を抽出した。調査にあたっては中国福建省福建医科大学の協力をえた。104医療機関で調査に同意の得られた臨床医475名を対象とした。HIV/AIDSに関する知識、態度についてのWHO標準質問票をもとに自記式質問票を作成し、調査を実施した。454名の有効回答を得た(解答率95.6%)。統計解析は、SPSS11.5を用いた。知識と態度についての個人ごとの正答得点、および、HIV感染者／AIDS患者に対する診療意欲（willingness）をアウトカムとし、関連要因の検討を行った。

結果

知識に関する20項目の質問の平均正答得点は14.8（標準偏差2.8）であった。HIV伝播ルートについての9質問についてすべて正しく回答した者は45%（n=205）であった。6問の「望ましい態度」についての平均得点は3.8（1.4）であった。40%(n=183)の者にwillingness があった。

五つの医療機関レベルに分けて見ると、知識正答得点($p<0.001$)、態度得点($p=0.01$)、willingness($p<0.001$)に有意差が見られ、一番下位の村医療ステーションの医師・医士の得点が低かった。

多重回帰分析において、willingnessに関連がある要因は態度得点(Adjusted Odds Ratio (AOR)=2.64, $p<0.001$)、エイズサービスに対する自信があること(AOR=2.79, $p<0.001$)、および医療機関のレベルであった。

考察

医療従事者はエイズの予防策や治療行為の中で一番重要なキーパーソンであり、本研究の結果から、中国の医療従事者のエイズに関する知識は不十分であり、HIV感染者／AIDS患者に対する態度、診療意欲にも問題があることがわかった。特にHIV感染者、エイズ患者が集中する中国農村部では、臨床医の知識、態度・意欲が不十分であった。今後、医療従事者、特に農村部の臨床医に対して早期に効果的な教育介入の必要性が強く示唆された。